【ワークショップ】

哲学および人文・社会科学における男女共同参画推進・若手研究者支援の理念、現状、そして展望

京都大学　中畑正志
甲南大学　井野瀬久美恵
一橋大学　加藤泰史
立教大学　河野哲也

我が国の学術研究において、男女共同参画推進および若手研究者支援は，主に科学技術領域を中心に展開されてきた。科学技術基本計画が明示するように、「女性研究者支援」や「若手人材育成」を巡る各種施策は、「経済成長の原動力である科学技術イノベーション政策を強力に推進する」という目的に収斂し、人文科学の意義は科学技術推進に役立つことに求められている。人文社会科学領域における若手育成の問題に関しても、科学技術分野に比して、そのための予算配分はきわめて乏しい。また既に 2002 年に発足した男女共同参画学協会連絡会は、現在 53 の正式加盟学協会と 37 のオブザーバー加盟学協会を包合する大規模団体に成長し、各省庁と連携しながら活発な活動を展開しているが、その領域は科学技術分野に限定されている。人文社会科学領域では、ようやく 2017 年に男女共同参画推進のための学協会連絡会が発足したばかりである。

しかし他方で、こうした状況の下でも、日本哲学会での取り組みは強調されて然るべきであろう。2005 年日本哲学会は、理事会において男女共同参画推進のためのワーキンググループを発足させ、その後，若手研究者支援を視野に入れながら、各種アンケートを踏まえた分析と哲学的理念の再検討を積み重ねてきた。日本哲学会は、男女共同参画と若手育成を相互に関連する二つの独立的課題として位置づけ、一方が他方の枠組みに従属することなく、活発な議論を展開している。しかし日本哲学会としての活動には限界があり、広く人文社会科学領域の学協会が連携する体制、そして各大学各部局での具体的な取り組みが必要になるだろう。

以上のことを踏まえて、今回のワークショップでは，以下に挙げるような報告にもとづいて、関西哲学会においても関連する情報を共有するとともに、男女共同参画推進と若手研究者支援に対していま何が求められるのかについて議論を深めたいと考える。

1 中畑正志：ワークショップ開催の意図と理念の説明

2 河野哲也氏（日本哲学会「男女共同参画推進と若手研究者支援 WG」）：日本哲学会における女性研究者および若手研究者の現状と諸問題についての報告および男女共同参画推進と若手研究者支援の連動の必要性の説明

3 井野瀬久美恵氏（昨年発足した「人文・社会科学系学協会男女共同参画推進連絡

会」（GEAHＳS、通称ギース)の会長、日本学術会議前副会長）：人文社会科学における男女共同参画をめぐる最新の諸動向の報告

4 加藤泰史氏（日本哲学会会長）：日本哲学会での取り組みと展望の報告

なお、このワークショップは日本哲学会男女共同参画・若手研究者支援ワーキンググループとの共催である。